大阪商業大学堺高等学校
校　長　　河野　定幸

令和７年度　大阪商業大学堺高等学校　学校評価

1　めざす学校像

「スクール・ミッション」をわかりやすく具現化した「商大堺の樹」を柱として教育方針を作成し、建学の理念「世に役立つ人物の養成」が実現できる学校をめざす。

(1) 「学ぶ習慣」、「生きる習慣」、「生命を貴ぶ心」を定着させ、さらに、「表現する力」や「行動する力」を養える学校。
(2) ４つのコースそれぞれの「スクール・ポリシー」に基づいて学び、社会で個性を発揮し、貢献できる存在として羽ばたく人物を養成する学校。
(3) クラス活動や特別教育活動を通して得られる共感的な人間関係を育成し、お互いの個性や多様性を認め合う安心・安全な学校。
(4) 教員が、現状を理解して共通認識を持ち、チームとして様々な変化に対応し、新しい教育を常に学び実践する学校。
(5) 保護者、同窓会、地域との連携を強化し様々な活動への協力を行うことで、地域に根差し、地域に支えられ、地域を支える学校。

2　中期的目標

1　学力と道徳心を備えた社会に有用な豊かな人格の育成。
(1) 各コースの特色を生かした教育課程を編成し、生徒の学習意欲の向上を図る。
ア　公開授業等を活用して「生徒自ら取り組む授業」への改善を図る。
※　生徒の学習への自主的な意欲を高める指導方法の共有を図るために、公開授業を実施する。
イ　外部機関や他校の研究授業・研修に積極的に参加するよう奨励し、自ら学び続ける教職員集団を育む。
※　外部機関や他校の研究授業・研修に 20 名以上の参加。校内研修会で 1 度は全員が学習する。
ウ　生徒の多様な学びの要望に応える授業やカリキュラム、課外プログラムの提供に努める。
※　生徒の幅広い進路選択につながるプログラムを実施する。
エ　進路に対する目的意識向上を図り、希望進路の達成を図る。
※　コースごとのポリシーに則した希望進路達成を充実させ、系列大学への進学者数を確保する。
(2) 特別教育活動など多様な体験活動を通して達成感で自尊感情と規範意識を高める。
ア　頭髪、服装、遅刻指導を推進する。
※　生徒一人当たりの遅刻回数を年間3回未満にする（R6は4.1回）。
※　各種指導において、生徒に理解させることに重点を置いた指導を行う。
イ　ＳＮＳの普及による対人トラブルや人権侵害についての学習を推進する。
※　このテーマに関連した新入生対象の学習会を年間3回以上実施する。
ウ　朝夕の立ち番指導であいさつや通学マナーの向上を図る。
※　日常的な声掛けを行い、来校者や外部からのお叱りの声を月平均 1 回未満にする。
エ　体育祭、文化祭など生徒自治活動を推進し、学校行事の充実・発展を図る。
※　既存行事の充実を図るとともに、生徒主体の新たな行事を実施する。
オ　クラブ活動の一層の活性化を図る。
※　教育活動推進部によるクラブ加入率調査結果を 60%以上にする（R6 は 56%）。
(3) 特別教育活動、教育相談の充実。
ア　特別なニーズを要する生徒に適切な対応を図れるよう教職員の研修を推進する。
※　このテーマに関連した教職員向け研修会に 3 回、5 人以上の参加。校内研修会で 1 度は全員が学習する。
イ　保護者、中学校、教育相談員、医療機関等との連携を密にし、多様な生徒への援助を図る。
※　教育相談を 130 日以上開室（R6 は 147 日）し、全面接回数 500 回以上とする（R6 は 703 回）。
ウ　生徒情報を共有化し、3 年間を見通してきめ細かい指導を行う。
※　担任、保健室、事務室など、個別に所有する情報の一元化を行う。
2　地域に開かれ信頼される学校づくりの推進。
(1) 勤労教育の実践を推進し、建学の理念を体得させる。
ア　勤労体験学習の一層の充実を図る。
※　2 年生において週 1 単位の授業時間を確保し、四季に応じた勤労体験を行う。
イ　近隣小学校の農業体験（総合学習）のサポートを通して連携強化を図る。
※　年間 20 時間以上の農業体験に取り組む。
ウ　収穫感謝祭を通して近隣住民に本校の教育活動への理解と協力を促す。
※　収穫感謝祭の参加者を 300 人以上（R6 は約 250 人）にする。
(2) 地域社会の一員としての自覚と責任感を持ち、活動を通して他者を思いやる心を養う。
ア　堀上町一斉清掃へのボランティアを継続し地域の美化向上に努める。
※　近隣自治会主催の活動に 3 回以上参加する。
イ　堺市内の各種イベントに積極的に参加・協力し、地域のコミュニティや教育づくりに貢献する。
※　堺市立小学校連合運動会、中区区民フェスタ、「SHS なか学コミュニティ」など堺市内の各種イベントに延べ 100 名以上参加する。
(3) 学校情報の発信を充実させる。
ア　オープンスクールや学校説明会、トワイライト入試説明会の内容を充実させる。
※　オープンスクールの参加者を 500 名以上（R6 は 403 名）、学校説明会の参加者を 600 名以上（R6 は 470 名）、
トワイライト入試説明会の参加者を 50 組以上（R6 は 26 組）にする。
イ　学校ホームページ、学校案内（パンフレット・ポスター・チラシ）、さくら連絡網などを更新、活用し学校情報の積極的な配信に努める。
※　学校ホームページは週 1 回以上更新し、SNS での情報発信を行う。
(4) 学校施設等の諸条件の整備と防災教育を推進する。
ア　耐用年数、生徒数増加に見合った学校施設等の諸条件の整備・改善を推進する。
※　各施設の築年数・耐用年数を確認・整理し、修繕・改修工事計画の立案に着手する。
イ　防災教育や危機管理体制を再構築する。
※　年 2 回以上の全校避難訓練を実施する。
3　生徒、保護者から信頼され、帰属意識を高める学校づくりの推進。
(1) 生徒、保護者、地域から信頼される教職員集団を育む。
ア　学力向上、生徒自治活動、教育相談などあらゆる教育活動を教職員が集団で取組む体制を推進する。
※　日常の学校生活や各行事において、事前・事後に会議を行い、生徒・教職員が一丸となり実施する。
イ　生徒による学校内外の清掃・美化意識を高めるよう推進する。
※　ホームルーム教室以外も、日常的に学校全体を分担して清掃を行う。校舎全体の大掃除を年 4 回実施する。

自己評価の結果と分析・学校評価委員会からの意見

自己評価の結果と分析	学校評価委員会からの意見
（生徒自治活動に関して） 文化祭、体育祭においては、生徒の自治活動として活気にあふれている。両行事とも、多数の保護者に参観いただいている。保護者が楽しんで行事に参加できるのは、生徒たちが学校行事を楽しんでいる賜物と考えている。	・「表現する力」「行動する力」は大人になっても必要なことだと思います。商大堺の生徒が「思いやりのある優しい力」もあればスポーツでも学習面でももっと一人一人輝けるよい学校になると、なってほしいと願っています。 ・体育祭、文化祭について非常に楽しく協力しあって楽しんでいると思います。体育祭は体育館での開催になってから保護者も来場しやすく、また上からの観覧により全体が見渡せるのも良いです。文化祭に関しても、毎年生徒たちが考え、協力しあって楽しいイベントになっていると思います。本校の自慢の一つであると思います。
≪課題１≫　スクールカウンセラーに関して 週４日スクールカウンセラーを配置しており、年間 476 回の面談を行っているが、担任や養護教諭からの声掛けを始まりとした利用が大半である。悩みを打ち明けられず困っている生徒・保護者もいると考え、幅広い利用につながる方策を検討せねばならない。	・カウンセラーが来校とあるが見たことがない。７０％が本当に知っているのか疑問である。 ・必要に応じて担任の先生から案内があるのかと思いますが、スクールカウンセラーの利用方法、システムを知らなかったです。
≪課題２≫　コース設定に関して ４つのコースそれぞれにある「スクール・ポリシー」について、入学前、在校中、卒業後につながる３つのポリシーを、教員がしっかり意識を持ち、生徒に指導していくことが重要である。そのためには、本校を理解し、系列大学を含めた各コース目標の進路先を理解していくことが必要である。	・４つのコースも、本当に４つのコースによって別々に分けている意味があるのか。クラスとして分けている意味を考えてほしい。休んでいる生徒が多いクラスは何かまた違ったコースも考えていかないと、学校に来る意味やクラスに自分の場所がある意味など、成長する中で教育の形がなっていないコースがあるならば、もっとみんなが楽しめる、輝ける、来たいコースを新しく作っていってもよいのではないでしょうか。
≪課題３≫　授業運営に関して 教室へのプロジェクター配備は４年目を迎え、教員のタブレットを用いた授業運営は充実してきている。しかし、生徒の所持は３年目を迎えるが、アプリの活用などはあるものの十分な活用とは言えない。また、ICT 機器にかかわらず、教員間で授業内容にも差があり、個性と言える部分ではあるものの、同一コースの授業については生徒たちに極力差の出ない連携は必要である。	・たくさんの先生方が分かりやすく工夫して、教育の変化を学びながら授業をされているようですが、一部の教員に関しては教科書に記載されていることを説明できない、実技などでは得意、不得意はあるものの全く生徒に見本が見せられない。教員が実技をできない等の声も聞きます。教員も今のままで満足せず、日々向上されることを願います。
≪課題４≫　登下校のマナーに関して 自転車マナーについては、入学後すぐの自転車免許講習会をはじめ、折に触れ行っているため、マナーを守れている生徒は多いと考えている。しかし、学校周辺の道が狭小であるため、学校の始業寸前や終業直後においては、多くの生徒が道に溢れ、近隣の方に迷惑をおかけしている。相手の目線に立って行動ができる生徒を育てていかなければならない。また、特に雨天時は車での送迎も増えることがあり、学校周辺の道路は、とても混雑している。日常から、時間に余裕を持った行動を行うよう指導していく必要がある。	・登下校時のマナーの悪さ（信号無視、自転車の二人乗り、広がって集団で自転車を走行する等）実際に目撃したり、近隣の方からよく聞きます。校則も大事ですが、他人に迷惑をかける行為をなくすことも大事だと思います。 ・遅刻の増加に関して、雨の日の車の送迎による離合の問題が増えてきて、何分も通行できず、それにより今まで間に合っていた生徒も遅刻したなどの声も聞きます。
（地域とのかかわりに関して） 11 月に実施している収穫感謝祭は長年実施しているため、近隣の方の認知度も高く、とても楽しまれている。しかし、異常気象の影響もあり、期待に沿った収穫量を確保できないところは残念である。実施の時期や作物の種類など考えていくことも必要である。また、中区のイベントや、近隣の祭りなどでクラブパフォーマンスを行うことは、近隣の方に喜んでいただき、生徒たちにとって発表の場があるのはうれしいことである。今年度は、趣向の変わったウェイトリフティング部の重量挙げパフォーマンスを行い、特に好評を得た。	・収穫感謝祭については地域の方々や保護者、生徒にも大変良いイベントであり、学校の評判アップにも繋がると思います。 ・堺市中区のイベントに参加し、パフォーマンスを見ていただくことで本校の魅力をたくさんの方々に発信できていると思います。
≪課題１≫　施設整備について 体育館に大型冷風機を導入するなど、暑熱対策を行っているが、給水に困難を生じるとともに、局所対応となっている。また、廊下の雨漏り、開閉の困難な窓など、施設の老朽化も甚だしく、施設整備の計画は早急な課題である。	・空調設備のない体育館や、廊下の見た目の老朽化を改善してほしいです。 ・施設費を上げるなど、今の時代に合わせてみてもいいかもしれない。対策や改善をしっかり考えていけば、生徒獲得につながっていくと思う。
≪課題２≫ 新たな広報ツールとしてインスタグラムを開設し、学校行事やクラブ活動の様子の発信に努めている。ターゲットは、在校生（保護者）なのか、受験生（中学生）なのか、しっかりと考え、発信していく必要がある。また制作は、一部の教員によるところが多いため、多くの教員が関わることで、内容を多岐にわたらせる必要がある。	・インスタグラムの開設が始まり、今後フォロワーが増えると周知度も増えると思います。 ・インスタグラムはスポーツコースの配信が多く一般の生徒の学校生活や楽しそうな生徒の姿が見られると良いと思います。
（教職員集団に関して） 電話やさくら連絡網を用いて、保護者との関係を密にしているため、日常的な指導について高評価を得ている。職員会議や分掌・学年・委員会の会議だけでなく、職員室などでの雑談を含め、教職員間で様々な情報を共有できていることが、生徒一人ひとりの成長の支えとなっている。今後も継続的に組織的に対応できるように、システムの導入などマンパワーに頼らない情報共有の方法を考えていくことも必要である。	・学校評価を拝見し、全体として学習面だけでなく、生徒指導、進路指導、地域との連携など、多方面にわたり生徒一人ひとりの成長を支える取組が行われていることがよく分かりました。特に、生徒の性格を理解し関わっていただけることや、現状の問題点もきちんとお話しいただけるところ、また今だけでなく、将来社会で求められるのはどのような人物なのかなど、自立するために大切なことを伝えてくださることにとても好感が持てます。 ・何かあれば先生方に相談できる環境で保護者としては安心して子供を通わせることができています。

		今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	総 括 ・ 自 己 評 価
1　学力と道徳心を備えた社会に有用な豊かな人格の育成。	（1） 各コースの特色を生かした教育課程を編成し、生徒の学習意欲の向上を図る。	ア　公開授業等を活用して「生徒自ら取り組む授業」への改善を図る。	生徒の学習への自主的な意欲を高める指導方法の共有を図るために、公開授業を実施する。	6月、11月に公開授業を実施し、教員間での授業運営の共有、内容のアップデートについて意見交換を行った。また11月の公開授業では保護者にも3日間授業を公開し見学を行う機会を設けた。保護者アンケートから一部厳しい意見もいただいたが全教員で情報共有を行った。 日常の授業においては、全教室に設置されたプロジェクターにより、スライドを用いた授業が多く行われ、生徒が理解しやすい授業が行われている。しかし授業中における生徒のchromebook活用については頻度が高いとは言えず、デジタルを用いて生徒が主体的に参加できる授業運営を研究していく必要が急務である。（△）
		イ　外部機関や他校の研究授業・研修に積極的に参加するよう奨励し、自ら学ぶ教職員集団を育む。	外部機関や他校の研究授業・研修に20名以上の参加。校内研修会で1度は全員が学習する。	教務部内に研修担当を設け、校内外の研修案内を集約し、積極的な研修参加を促すことができた。校内では、新任常勤講師対象の研修を年9回行い各分掌の業務について知識を深めた。校外では、大阪府教育庁や大阪私立中学校高等学校連合会、日本私学教育研究所などが主催する研修会に参加した。更に、NewEducationEXPOやEdix関西など企業主催の研修会にも多くの教員が参加し、社会状況の変化に応じた教育内容を学び、校内にも取り入れることができた。また、学校教育に特色のある広島県の私立瀬戸内高校に2名の教員が訪問を行った。（○）
		ウ　生徒の多様な学びの要望に応える授業やカリキュラム、課外プログラムの提供に努める。	生徒の幅広い進路選択につながるプログラムを実施する。	国際教育について、外部講師による英検対策講座の活用による資格取得喚起だけでなく、今年が2年目となるブリティッシュヒルズ（福島県）の国内語学研修に5名が参加し、今年度から実施された谷岡学園3高校合同海外語学研修（オーストラリア）には17名が参加し、現地で生きた英語や異文化を体感することで、将来の進路選択の一助となった。また、1、2年生においては、多くの大学や専門学校を招いて実施する進路ガイダンスを複数回実施することにより、自身の適性を理解し卒業後の進路選択につながる情報提供を行った。3年生においては、公務員試験対策、自己PR文の添削指導、大学受験2次対策などを外部に委託するなど、生徒個々の進路に合わせたプログラムの提供を行った。（◎）
		エ　進路に対する目的意識向上を図り、希望進路の達成を図る。	コースごとのポリシーに則した希望進路達成を充実させ、系列大学への進学者数を確保する。	学校推薦型選抜（系列校推薦、指定校推薦）ではなく、総合型選抜により自分の将来を決める生徒が増えてきている。多様化する受験制度の中で、生徒が自分に見合う進路を決断し合格できるよう、系統立てた進路指導を行っていく必要がある。その中で、今年度は、系列大学への進学者数が大阪商業大学 38 名、神戸芸術工科大学 1 名と大幅に減少した。そのため、早急な対策として 1、2 年生を対象とした神戸芸術工科大学の卒展見学を企画し、3 名が参加した。（×）
	（2） 特別教育活動など多様な体験活動を通して達成感で自尊感情と規範意識を高める。	ア　頭髪、服装、遅刻指導を推進する。	生徒1人当たりの遅刻回数を年間3回未満にする（R6は4.1回）。 各種指導において、生徒に理解させることに重点を置いた指導を行う。	年間の1人当たりの遅刻回数は5.2回に増加した。個別に配慮が必要な生徒が増えていることも一因と考えられるが、コロナ禍以降の遅刻・欠席に対する意識の変化が大きいと考える。 基本的な生活習慣を身に着けることが必要であり、社会人になるための準備として、時間の大切さを理解させる指導を行っている。 生徒指導提要の改訂に伴い、「守らせる」から「理解させる」指導に変更したことにより、生徒たちは一定の落ち着きを見せている。 日常的な校内巡回が生徒の様子観察につながり、生徒とのコミュニケーション深化に繋がっている。（×）
		イ　ＳＮＳの普及による対人トラブルや人権侵害についての学習を推進する。	このテーマに関連した新入生対象の学習会を年間3回以上実施。	入学直後より、生徒指導部、学年、人権教育委員会が中心となり、人間関係作りに重きを置いた講義を行い、その中でSNSによるトラブルの事例についても説明を行っている。しかし、SNSは身近に使えるツールであるため、安易な気持ちで用いてトラブルになることも多い。文字で伝えることの難しさ、受け取る側の気持ちに気付けるように指導を徹底していく必要がある。（△）
		ウ　朝夕の立ち番指導であいさつや通学マナーの向上を図る。	日常的な声掛けを行い、来校者や外部からのお叱りの声を月平均1回未満にする。	本校来校者からは、生徒の明るい大きな声の挨拶に、良い気持ちになると多くのお声をいただき評価を得ている。その反面、登下校時の自転車や電車などでのマナーについては、外部からの電話やホームページへのお問い合わせにより、お叱りの声をいただくことが毎月数件ある。短時間に集中する集団移動のため致し方ない面もあるが、周りへの気遣いが自分たちの安全にもつながることを理解させることが重要である。（△）
		エ　体育祭、文化祭など生徒自治活動を推進し、学校行事の充実・発展を図る。	既存行事の充実を図るとともに、生徒主体の新たな行事を実施する。	体育祭や文化祭への保護者の来場者数は生徒在籍数に迫っており、保護者も本校の行事をとても楽しみにしている。これは、生徒が学校行事を楽しんでいるからこそであり、明るく楽しい商大堺を体現しているものとなっている。また新たな行事として、生徒の夢を実現する「七夕企画」を今年度初めて行った。多くの応募から、２件が採用され、生徒が夢の実現に向けて主体的に行動する後押しをすることができた。（◎）
		オ　クラブ活動の一層の活性化を図る。	教育活動推進部調査によるクラブ加入率調査を60%以上にする（R6は56%）。	クラブ加入率は前年度比2ポイント減少し54%となった。全生徒に占めるスポーツコース生の割合が増加する中でクラブ加入率が減少しているということは、他コースのクラブ加入率が大きく減少しているといえる。検証はできていないものの、コロナ禍、コロナ後に小中学校時代を過ごした生徒たちの変化があるのではないかと考える。生徒のニーズに合わせたクラブの創設も含めて検討していく必要がある。（△）
	（3） 特別教育活動、教育相談の充実。	ア　特別なニーズを要する生徒に適切な対応を図れるよう教職員の研修を推進する。	このテーマに関連した教職員向け研修会に3回、5人以上の参加。校内研修会で1度は全員が学習する。	専門家を招いた「セクシャリティを学ぶ会」を学期ごとに行い、各回5名以上が参加し、昨今の事例などを学んだ。また、特別な事由がある生徒に、特別支援教育コーディネーターを中心として、学年とも情報共有を行い、生徒全員が安心した学校生活を送れるよう配慮している。（◎）
		イ　保護者、中学校、教育相談員、医療機関等との連携を密にし、多様な生徒への援助を図る。	教育相談は130日以上開室（R6は147日）し、全面接回数500回以上とする（R6は703回）。	教育相談の開室日数143日、面接回数476回であった。面接回数が大きく減少しているのは、前年度までは毎週のように活用していた生徒がいたことも一因である。また、継続利用を選ばない生徒も増えており、遅刻・欠席の増加にもつながっていると考える。また、配慮が必要な生徒については、その保護者とも連携を行いながら情報を定期的に学年と共有し、教育相談員や関係医療等に繋ぐことで、早期発見・初期対応向上の強化を行った。（◎）

		ウ　生徒情報を共有化し、3年間を見通してきめ細かい指導を行う。	担任、保健室、事務室など、個別に所有する情報の一元化を行う。	統合支援システム「ツムギノ」の導入により、名簿、成績、保健関係などの情報一元化を目指したが、ツムギノ側のシステム設定に時間がかかり、全面運用の開始にいたらなかった。そのため、各種の情報を部署ごとに保管している状況にあり、早急に整理していく必要がある。（×）
2　地域に開かれ信頼される学校づくりの推進。	（1） 勤労教育の実践を推進し、建学の理念を体得させる。	ア　勤労体験学習の一層の充実を図る。	2年生において週1単位の授業時間を確保し、四季に応じた勤労体験を行う。	2学年での週1時間の授業をはじめ、5月のさつまいも植付け、6月の田植え、10月の稲刈り、11月の収穫感謝祭、2月の卒業生への祝餅つくりを行った。自然に触れることの少なくなっている現代生活において、毎週土に触れ野菜等の成長を感じることができる授業は、生徒の心身の成長に大いに役立っている。生徒の育てた野菜は自宅に持ち帰り家庭で調理をしてもらい、保護者にも本校の勤労教育を体感していただいている。（◎）
		イ　近隣小学校の農業体験（総合学習）のサポートを通して連携強化を図る。	年間20時間以上の農業体験に取組む。	堺市立平岡小学校5年生の総合的な学習の時間を本校農園や小学校に赴き行った。種や苗を植え、育て、収穫するといった体験を行うことで、命を体感できるとともに、生きていくためには周りからの助けも必要であることに気付くことにつながっている。このような教育活動を通じて、地域との連携をより強化していきたい。（◎）
		ウ　収穫感謝祭を通して近隣住民に本校の教育活動への理解と協力を推進する。	収穫感謝祭の参加者を300人以上にする（R6は約250名）。	収穫感謝祭に約300人の来校があった。本年も夏場の気温上昇等により野菜の生育が芳しくなく、収穫量が例年よりも少なかったためすぐに完売を迎えた。しかし、近隣の方からは、物価高の中での野菜の格安販売に感謝の声が多く、販売している明るい生徒たちから元気を得たとの声をいただいた。（〇）
	（2） 地域社会の一員としての自覚と責任感を持ち、活動を通して他者を思いやる心を養う。	ア　近隣自治会への活動に参加などボランティア体験に努める。	近隣自治会主催の活動に3回以上参加する。	5月の堀上町一斉清掃に参加し、学校近隣の清掃ボランティアを行った。11月の八田荘自治連合会主催の八田荘つどいの広場では、女子ダンス部、軽音楽部、ウェイトリフティング部がパフォーマンスを実施した。また、8月の蜂田神社での風鈴まつりにおいても、前記3クラブが会場を盛り上げ、本校生が地域の方々と触れ合う機会となり、本校の認知度向上にもつながった。（◎）
		イ　堺市内の各種イベントに積極的に参加・協力し、地域のコミュニティや教育づくりに貢献する。	堺市立小学校連合運動会、中区区民フェスタ、「SHSなか学コミュニティ」など堺市内の各種イベントに延べ100名以上参加する。	堺市立小学校連合運動会へのサポートは行わなかったが、当日参加する八田荘小学校の生徒に事前指導を本校で行った。また、堺市中区主催のイベントにおいても今年度は参加依頼がなかったため参加ができなかった。 「SHSなか学コミュニティ」においては、他の2校の生徒と参加し、地域で楽しめる飲食店情報のチラシを作成して地域活性化の一翼をなした。（〇）
	（3） 学校情報の配信を充実させる。	ア　オープンスクールや学校説明会、トワイライト説明会の内容を充実させる。	オープンスクールの参加者を500名以上（R6は403名）、学校説明会の参加者を600名以上（R6は470名）、トワイライト入試説明会の参加者を50組以上（R6は26組）にする。	オープンスクールを2回実施し参加者は計436名、学校説明会は3回実施し参加者は計459名、トワイライト入試説明会は4回実施し計20名の参加者があった。参加者総数は昨年度とほぼ同数だが、入学試験への出願者数は58名減、入学者数で18名減となった。オープンスクールでは生徒が司会を行うなど生徒（コンシェルジュ）を前面に押し出す企画としているが、事前指導などを行い見せ方、伝え方を検討していく必要がある。入試説明会、トワイライト入試説明会については、参加者数が増えるように、開催場所やオープンスクール、外部相談会での告知方法を検討していく必要がある。（×）
		イ　学校ホームページ、学校案内（パンフレット・ポスター・チラシ）、さくら連絡網などを更新、活用し学校情報の積極的な配信に努める。	学校ホームページは週1回以上更新し、SNSでの情報発信を行う。	新たな本校の情報発信ツールとして、本校公式Instagramの開設を行った。しかしフォロワー数がまだ少ないため、運用方法の確立やさらに周知を行っていく必要がある。さくら連絡網は、出欠連絡だけでなく、担任と保護者との連携ツールとして定着している。また、担任・学年・分掌などの単位でも保護者との連絡手段として活用されている。（〇）
	（4） 学校施設等の諸条件の整備と防災教育を推進する。	ア　耐用年数、生徒数増加に見合った学校施設等の諸条件の整備・改善を推進する。	各施設の築年数・耐用年数を確認・整理し、修繕・改修工事計画の立案に着手する。	今年度、教室扉の改修工事を行い南館及び北館全教室において、スムーズな開閉や確実な施錠が可能となった。教室内のICT教育設備は充実したが、Wi-Fi環境に脆弱性がみられるなど改善の余地がある。 空調設備がない体育館など、昨今の猛暑による熱中症発生など学校生活に困難をきたす箇所もあり、早急な対策の検討、改修工事計画の立案が急務である。（×）
		イ　防災教育や危機管理体制を再構築する。	年2回以上の全校避難訓練を実施する。	年2回の全校避難訓練において、危機管理マニュアルをもとに、避難補助が必要な生徒の把握(異装届の確認、障がい者の把握等)、AED、簡易タンカ、配慮生徒の酸素ボンベ等を誰が運び出すのかなどの方法などを決め、グラウンドへ持参し、実際の場合に備えた訓練を行った。地震については大阪880万人訓練に合わせて訓練・学習を行った。また、今年度AEDを使用する事例が発生したが早急な対応により事なきを得たが、全教職員および生徒が、確実な知識を習得しておく必要がある。（〇）
3　生徒、保護者から信頼され、帰属意識を高める学校づくりの推進。	（1） 生徒、保護者、地域から信頼される教職員集団を育む。	ア　学力向上、生徒自治活動、教育相談などあらゆる教育活動を教職員が集団で取組む体制を推進する。	日常の学校生活や各行事において、事前・事後に会議を行い、生徒・教職員が一丸となり実施する。	全体の職員会議だけでなく、学年や分掌、委員会、コース単位での会議において情報共有を行うことで、教員が一丸となり学校教育を行うことができている。しかし、各行事においては事後の総括が行えてないところもあり、前年度の問題等が解消できていないところも見られる。また、途中で学校を離れる生徒も少なからずおり、入学した全生徒が笑顔で全員卒業することを目標に、全教職員が一丸となり、生徒・保護者と連携していくことが重要である。（△）
		イ　生徒による学校内外の清掃・美化意識を高めるよう推進する。	ホームルーム教室以外にも、日常的に学校全体を分担して清掃を行う。校舎全体の大掃除を年4回実施する。	生徒は日々の教室清掃、学期ごとに指定された特別教室の清掃、年4回の大掃除を丁寧に行っているが、義務的な活動であることは否めず、主体的に自分たちの環境づくりを行っているとはまだまだ言えない。まず身の回りを整頓するなど、個々の意識を上げていくことから始めていく必要がある。（〇）

令和８年９月 25 日

令和７年度学校評価に係る第三者評価委員会　議事録

日　時　：　令和８年９月 25 日（金）　12：00～12：50
場　所　：　大阪商業大学堺高等学校　校長室
出席者　：　磯崎　伸子　（蜂田神社　宮司）
　　青木　寛典　（堺市教育委員会事務局 学校教育部 教育課程課 主任指導主事）
　　増田　信也　（株式会社増田工務店　代表取締役）
　　尾上　典子　（堀上北自治会長）
　　河野　定幸　（大阪商業大学堺高等学校　校長）
　　静　　純也　（大阪商業大学堺高等学校　教頭）
　　坂東　晃次　（大阪商業大学堺高等学校　教頭補佐）
　　野島　　寛　（大阪商業大学堺高等学校　事務長）
欠席者　：　守口　　篤　（医療法人旭医道会ひとねクリニック内科　医師）

【議　題】
大阪商業大学堺高等学校の教育活動、学校評価に係る自己評価及び今後の教育活動に対する意見・提言について

【議　事】
冒頭、河野校長より開会の挨拶があり、続いて本校の現状について進路実績等を含めた報告が行われた。
また、令和９年度から予定している学校改革、学校週５日制及び「ジブンジカン」（課外の時間を活用した選択制の検定対策講義や大学受験対策講座、探究活動、クラブ活動等）について説明があり、生徒が主体的に学び、自らの興味・関心や目標に応じて成長できる機会を提供していくことについて説明があった。

続いて、令和７年度学校評価の概要及び自己評価の内容について、本校のめざす学校像の実現に向けた各目標について、実施結果を踏まえた課題及び今後の改善計画について説明が行われた。

これを受け、各委員から以下の意見・提言があった。

① 自己評価について
学校としての「めざす学校像」及び「中期的目標」については大変良いものと認識している。一方、自己評価において、重点目標である「進路に対する目的意識向上を図り、希望進路の達成を図る。」等について、未達成となっている項目が見受けられる。これらについて、学校としての取り組みに十分な効果が表れていないとも考えられる

が、今後どのような改善を図っていく予定なのか。

［回答］
校長として実施結果を踏まえ、厳しく評価した項目が多い。授業については教員間で連携を図り、授業研究等を通じて改善していきたい。
また、系列大学である大阪商業大学への進学者数を増やしていきたいと考えており、コース変更も視野に入れ、現在検討を進めている。
自転車に関するマナーやSNSによるトラブル、遅刻者数の増加については、入学直後から講義や指導を丁寧に行っているが、依然としてトラブルや近隣からのお叱りの声がなくならない状況である。引き続き、根気よく指導を行っていきたい。

② 特色やコース編成について
学校週５日制が導入されることをチャンスと捉え、商大堺にしかできない特色あるコース、例えばビジネス関連やＡＩ等に特化したコースを設置するなど、他校との差別化を図っていくべきではないか。受験生から選ばれ、入学者を増やしていくためには、そのような特色づくりが必要ではないか。

［回答］
授業料無償化により、公立高校との費用面での差はなくなり、今後は競合する私立高校との比較検討がより進むものと考えている。
「学校週５日制」及び「ジブンジカン」を活用し、成長意欲のある生徒を伸ばし、定着させるとともに、クラブ活動の活性化やコース再編も視野に入れ、学校の特色づくりに取り組んでいきたい。

③ 問題事案への対応について
学校で発生した問題事案の対応について、学校としての情報発信や保護者への説明会の実施など、迅速かつ適切に対応していることを評価している。

④ 系列大学への進学について
大阪商業大学及び神戸芸術工科大学という系列大学への進学について、その制度やメリットについての認知をさらに広げ、本校への入学を検討する際のメリットとして、より積極的にアピールをしていくべきではないか。系列大学への進学について、知らない受験生も多いと思われる。

⑤ 主体的な学びに向けた取り組みについて
自己評価において、教員側には「生徒が主体的に取り組んでいる」とは十分に捉えていない状況も見受けられる。生徒主体の授業への取組や、具体的な改善事例があれば伺いたい。

［回答］
英語の授業において、導入段階でタブレットを活用し、チーム制で英単語の回答を競うアプリを導入するなど、楽しみながら分かりやすく学ぶことができる授業が行われている。
個別学習の面では一定の取組が進んでいる一方、共同学習の場面ではまだまだタブレットの活用までには至っておらず今後の課題である。

⑥ 地域活動への参加について
以前から地域の行事に生徒が参加してくれていることに感謝している。また、参加している生徒は皆、礼儀正しく、人柄の良い好印象の生徒が多いと感じている。
今後も継続して生徒へのご指導をお願いしたい。

【閉　会】
以上の意見・提言を踏まえ、今後の教育活動に取入れ、改善を図っていくことを確認し、閉会した。

以　上